

夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史 I. 関東編
Down in Japanese Photography [I. Kanto district]

主催 東京都写真美術館・近代和国写真学会・東京新聞出版局 協力 日本大学芸術部 協賛 在日英米各国



東京都写真美術館では、日本全国の美術館・博物館・資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」シリーズを開催します。幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真、芸術作品に用いられる以前の写真は、いったいどのようなものだったのでしょうか。

日本最古の写真は、ペリー艦隊の従軍写真師が撮影したものです。写真は西洋技術の象徴だったので、やがて、横浜や長崎などが開港し、訪日する写真師との関わりから、江戸の頼崎主川や港濱部の上野彦馬、下岡運枝など、日本人の写真師が各地に現れます。そして、幕末～明治の西洋的近代化へ向かう日本および日本人を写真し、その技術はさらに次の世代へと伝承されていきました。

なお、本シリーズは引き続き、写真の伝播と普及についての調査、研究をすすめ、「II. 四国・九州編」、「III. 中部・関西編」、「IV. 北海道・東北編」、「総集編」へと展覧会を開催し、日本中に現存する初期写真の現状を探る予定です。

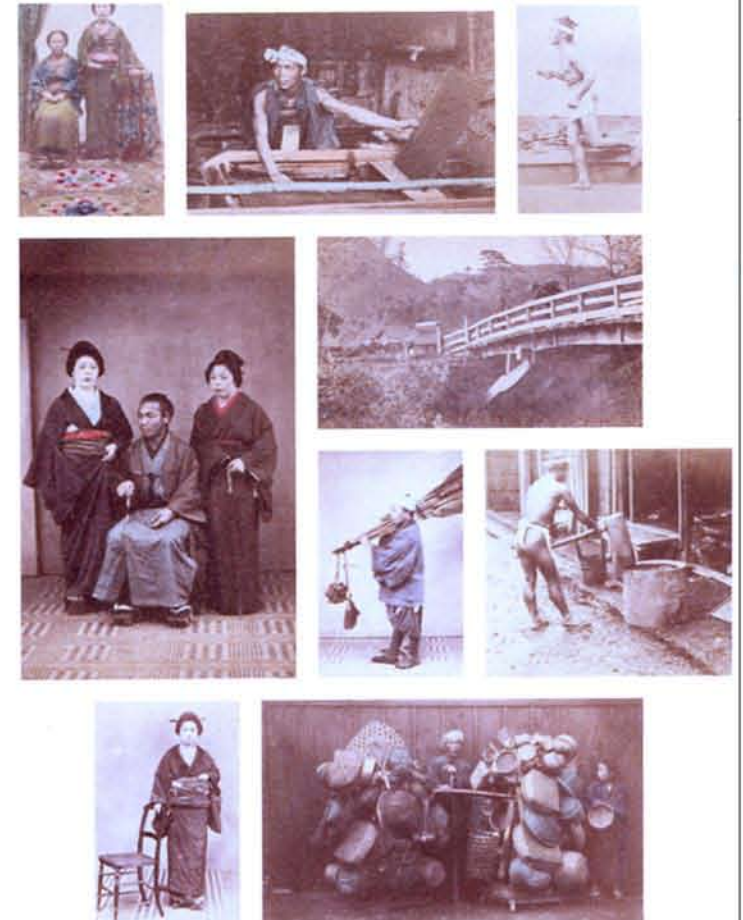
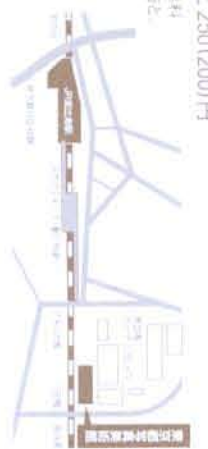
1. 頼崎主川「大日本万国博覧会」(1873年) 撮影機、東京大学資料館蔵
2. 「東京市」(明治初期の市街地) 写真師、東京大学資料館蔵
3. 「明治二十三年」(明治二十三年の市街地) 写真師、東京大学資料館蔵
4. 「明治二十三年」(明治二十三年の市街地) 写真師、東京大学資料館蔵
5. 「明治二十三年」(明治二十三年の市街地) 写真師、東京大学資料館蔵

【担当学芸員による展示解説】

会期中第2・4金曜日午後2時より展示解説を行います。展覧会チケットをお持ちの上、会場入口にお集まりください。
【古典技法・鶏卵紙プリントワークショップ】
日程：3月24日(土)・3月31日(土) 申し込みはホームページ <http://www.syabi.com> をご覧ください。

開館時間：10:00～18:00 (水・木曜日は20:00まで、入館は開館の30分前まで、日曜休館、ただし4月20日は閉館)

観覧料：一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中学生・高校生・65歳以上 250(200)円
※20歳以上の団体料金
※東京都写真美術館の会費は無料 ※3歳未満は55歳以上無料
※交通料は本館無料です(小学生以下、60円以下、在学の中学生、高校生は別途料金がかかります)
※当館には専用駐車場はございません。お車で来館の際は周辺の有料駐車場をご利用ください。



夜明けまえ

Down in Japanese Photography [I. Kanto district]
知られざる日本写真開拓史 I. 関東編



2007年3月10日(土)～5月6日(日) 東京都写真美術館 (恵比寿ガーデンプレイス内) 2階展示室